

## 令和7年度 第3回 佐久間中学校運営協議会 会議録(要点記録)

- 1 開催日時 令和7年10月23日(木) 14時30分から16時30分まで
- 2 開催場所 佐久間中学校 会議室
- 3 出席委員 高氏 秀佳、笹野 訓子、奥山 和子、鈴木 千穂、向坂 美保、  
片倉 美咲
- 4 欠席委員 本家 美佳
- 5 オブザーバー 大見 芳(NPO法人がんばらまいか佐久間 理事長)  
鈴木 充弘(佐久間支所地域振興グループ長)  
長谷川陽子(佐久間図書館)  
山本 巖(前 運営協議会委員)
- 6 学 校 小出 義幸(校長)、鈴木 政晴(教頭)、高原 英樹(教務主任)
- 7 浜松市教育委員会 牧野 知子 指導主事(学校・地域連携課)
- 8 傍 聴 者 0人
- 9 会議録作成者 CSディレクター 新聞千代子
- 10 議長の選出  
司会の教頭から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、各委員から会長を  
推挙する旨の発言があり、全員意義なくこれを承認した。
- 11 会議記録  
委員総数7名のうち6名の出席があり、会議が成立している旨の報告があった。
- 12 熟 議  
(1) 9月のCS活動について(教頭・奥山委員・向坂委員) ※詳細は資料のとおり  
○運動場クリーンアップ作戦(学校運営協議会主催9月12日)  
○家庭科ボランティア(裁縫3回、調理4回)  
○あいさつ標語のぼり旗(健全育成会)の掲示場所探し  
○CSだより(地域クラブの参加者募集)の掲示場所探し  
  
・ 支援コーディネーターが本当によく活動してくださっていることに感謝したい。(高氏  
会長)  
・ CSだよりの全戸配布について、地域にとって大切な内容だと思うが差止となった理  
由は何か。(大見オブザーバー)  
→組の全戸に自治会長が配布している地域があり負担が大きいため、全戸配布は  
原則行わないと聞いている。(教頭)  
→地域の既存のルール上の申し送りであり、費用面等含め全戸配布は厳しいと判  
断した。(鈴木オブザーバー)  
→CSだよりは地域に密着した内容であり、中学校の部活動が今後どうなるのかとい

うことは地域にとっても重要なことだと思う。再検討してご判断いただけたらと思う。

(大見オブザーバー)

→地域自治会のルール上やむをえないこともあると思うが、協議会から全戸配布について要望があった旨、再度伝えてほしい。(高氏会長)

## (2) 休日部活動の地域展開の状況について(教頭)

### ○今後の展開についての検討課題

- ・健全育成会からの協力について大変感謝申し上げる。(高氏会長)
- ・水窪中学の状況はどのようになっているか。(大見オブザーバー)  
→水窪中学校と連携をとる中で指導者を確保できないという大きな問題を抱えている。各競技というよりアクティ部(運動部)とクリエイティ部(文化部)での活動を行っているため、部活として明確にしにくい。将来的には佐久間地区、水窪地区と一緒に活動できるよう連携していきたいと考えている。(校長)  
→連携型一貫校として佐久間分校を軸に協力し合えるとよい。(大見オブザーバー)
- ・指導者、参加者の対象となる「地域の方」の捉え方としては、あまり広げると収拾が難しくなるので、どこかで歯止めをかけるためにも線引きは必要だと思う。(大見オブザーバー)
- ・人数的にも佐久間、水窪とも難しい状況ではあるが、やりたい人は一緒にやってよいと思う。ただ、指導者、参加者含め中学生にとって良からぬできごとがあってはならない。そのための歯止めが必要だと思うが、線引きが難しい。(高氏会長)
- ・生徒の部活動を軸に地域の賑わいをという思いがある。地域とのつながりがはっきりしている方に参加していただいて活動を盛り上げていただけたらと思う。(校長)
- ・身元がはっきりしていることが望ましい。(笹野委員)
- ・会費制は今後も含めどうしたらよいか。この地域ではたして定着するのだろうか。他地区の状況を情報収集する必要がある。(高氏会長)
- ・浜松市として支援をどう考えているのか。(大見オブザーバー)  
→浜松市認定地域クラブのガイドラインが一般公開(10月24日)される。市民の意見と国のガイドラインをあわせ軌道修正され来年の4月よりスタートする。はまクル認定されることで、学校の施設や道具を使用することができるようになる。費用は参加者から徴収することが原則となる。(校長)  
→指導料や保険費用など今後発生してくる。子供たちはまだまだ義務教育を受ける段階で、教育に充てるお金だと考えた場合、浜松市教育委員会から何らかの支援を考慮していただきたい。事前に出していただかないと実態がとらえきれない。方針として打ち出していただきたい。(大見オブザーバー)  
→ご意見ありがとうございます。(牧野指導主事)  
→現在は「佐久間地区 地域クラブ」として試行、来年9月から「はまクル」として始動

する。大人は気にならないが、義務教育の子供たちにとって会費等が発生するのはいかがなものか、今後周りの意見や状況を見定めて検討を重ねていく必要がある。

(高氏会長)

→必要費用のみでなく、移動手段(土日のスクールバス利用)や場所(県立施設である本校のテニスコート)のことなど、課題について市教育委員会に問題提起している。(校長)

- ・ 地域によってそれぞれ条件や考え方が変わってくる。その点をどのように考えているか。(笹野委員)

→参考までに、別紙「はまクル認定クラブ」の資料をご覧ください。(校長)

(指導者の人材バンク登録、スポーツ安全保険への加入などの共通条件を説明)

- ・ 地域クラブと部活動について、今後何を目的としていくのか、子供にとってどんな活動になるのか疑問に思う。佐久間中学として平日3日という限られた時間と日数の中で子供をどう育てるかという点を明確にしていかなないと活動自体があいまいになる危険性がある。子供も大人も意識を持って臨んでほしい。(山本オブザーバー)

→ここまでして部活動をやる必要があるのか。土日の部活動を位置づける必要が果たしてあるのか。新しく考え直す時期にきているのではないか。(高氏会長)

以上の説明、熟議を経て、今後示されるガイドライン、地域の実情を見ながら、課題を1つずつ潰していくことを確認した。

### (3) 次年度の学校教育活動について

- ・ 次年度の職場体験について、これまで地域人材の担い手という観点から佐久間地域で実施してきたが、今後の状況を考慮すると、接客などの活動ができる繁華街へ出ることも検討したいと考えている。(校長)

→職場体験についてどう考えるか。地域での体験という側面、働く体験という側面がある。(高氏会長)

→他地域での体験も、受入れ先があればよいのではないか。佐久間に限らず自分たちが体験したいことがあれば可能な限りに対応してあげたい。(笹野委員)

→以前は、遠鉄ストア店や新城の生花店など地域以外でも行っていた。(鈴木委員)

→過去には、地域の担い手というより、自分が将来やりたい職業に絡めての職業体験であった。郷土に尽くすというより、自分たちが生きていける力を育んでいることが結果的には将来郷土を支える力になると思う。学校がどう考えるかだと思う。2日間行く場所を変えるのはおもしろいと思う。(長谷川オブザーバー)

→水窪中は市街地へ出て職場体験を実施している。(片倉委員)

→以前、学校教育目標について検討した際、北遠教育の目標を踏まえ、佐久間の地にこだわった教育目標というより、佐久間にとらわれず、どこへ行っても存分に力

を発揮できる、活躍できる教育目標に変えた経緯もある。他地区に出での職場体験もよいのではないか。(山本オブザーバー)

以上の熟議を経て、次年度の教育課程編成の参考にしようとした。

(4) 2期満了に伴う来年度の組織について(校長)

今後も学校へご意見いただけるよう、何らかの形で学校に関わっていただきたいと考えている。意向調査のアンケートを11月中をめぐりお願いしたい。(校長)

13 浜松市教育委員会 学校・地域連携課から

学校と地域が密接に結びついていろいろな活動を支援取り組んでいる。特に地域クラブについては大変進んだ取り組みをしているので浜松市としても参考にしたい。(牧野指導主事)

14 連絡

次回会議は令和8年2月13日(金)14時30分～16時、佐久間中学校会議室にて開催予定。